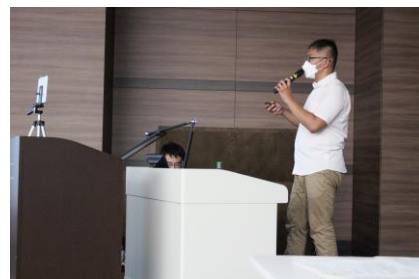


つながるカレッジ ねりま 共通講座レポート

令和3年5月29日開催

地域活動とコミュニケーション

講師は志寒浩二さん。認知症高齢者グループホームのミニケアホームきみさんちの管理者を務めつつ、認知症にやさしいまちづくりを目指す「おたがいさまの会」を立ち上げ活動しています。



序 地域活動と“私”

まずは、地域活動の出発点としての「私」を考えます。志寒さんは「私」を大切にしていよと言います。なぜなら私の思い、抱えている悩みや課題が出発点だから。「公私混同でOK」「公平無私でなくてOK」地域活動は、公ではできないことと私一人ではできないことをつなげてくれるもの。ご自身の体験を交えた話にうなずかされました。



破 地域活動の特徴

1 点目「目的が自由で多様」

会社や、社会福祉活動と比べて、地域活動は目的や公益性に縛られない自由なもの。考えていたよりもずっと地域活動は身近で自由なものだと感じました。

2 点目「ターゲットが自分や自分たちの地域」

志寒さんが認知症支援を行う理由の一つには、自分が認知症になったとき、住みやすい地域であるようにという思いがあります。地域活動によって、困っている人を助けることはもちろん、自分も喜びや利益を受け取ることができる。“私たちがこうありたいからする”という動機付けが大切だと志寒さんは話します。

3 点目「多様な人々が関わりあう」

地域活動団体は異なった考えや目的を持つ人々が集まりやすい。入社試験があるわけではなく、どんな人でも参加できるから。この特性から様々な人とつながることができ、自分が持っていないアイデアを得られる。目的や価値観に縛られない地域活動ならではの利点だと感じました。

急 地域活動とコミュニケーション

最後に、地域活動におけるコミュニケーションのあり方を考えました。

地域活動の特徴を踏まえて導き出されたコミュニケーションのあり方は、

「それぞれの個人の思いをわかちあい、わかりあう」

「あなた・社会はこうあるべきだ。ではなく、私たちはどうする？」

「個性性を尊重し、“私らしさ”を大事にする」

地域活動は年代や性別問わず、いろいろな人が関わって成り立つもの。だからこそ、意見の相違を否定せず、アイデアとして取り入れていく。自分や相手の考えに正解・不正解はないという言葉が印象的でした。

今回の講座を通して、地域活動はだれかの役に立つことだけを目的とするものではなく、“自分”という存在を根底に置く自己実現の場でもあることがわかりました。